



(教育の目的)

畏敬の念に立ち、
「看護専門職として人道を実践する人間」
すなわち、「医療施設看護にあわせ、特に、時代の要請である在宅看護の担い手として地域社会に仕えると共に、国際的・地球的連帯意識をもって人類に仕える看護職」を育成する。

(教育の指針・目標)

最新の看護知識・技術を修得させることはもとより、真のプロフェッショナルとして、“人間とは何か”“自己とは何か”という根源的問いかけをもってその知識・技術を活用し、主体的に また責任をもって行動できるちからを備えさせることを基本方針とする。

1. 自己教育力の養成、問題解決力の育成

教えられるのを待つのではなく、自ら主体的に問い、考え、自らを拓く姿勢、“学習力”を培う。

直面する諸困難を、“問い”すなわち自らの成長をうながす課題としてとらえ、その現実の中に対処・解決法を模索し、創造発展的に対応・行動するちからを養う。

2. 共創・共生的姿勢の育成と人間関係形成力の育成

人間の“協力”を、学習その他の活動における単なる共同作業という理解にとどめず、他者の存在を自己への問いかけとし、患者こそ自らを真の看護職たらしめる教師としてうけとめ、他者の痛み・苦しみを自分のものとして共感し、謙遜と感謝の想いをもって共に生きる姿勢をはぐくむ。

3. “畏敬の念”に基づく、生命観・人間観の育成

生を“天からの所与”、あらゆる生命をその時空における“他にかけがえない存在”としてうけとめ、生命と人格の尊厳を護る姿勢を育てる。

4. “地球家族”の一員としての自覚と責任感の育成

人間を地球環境・宇宙生命体に連なる存在としてとらえ、祈りをもって万有を愛し、環境を愛護し、世界平和を創り出すことに仕えるところをはぐくむ。

5. 地域創造への主体的参加と奉仕の精神の育成

自らが地域社会の担い手、また主体であることの自覚に立ち、地域住民の健康増進に寄与することのみならず、地域共同体の創造、“ふるさと創生”に積極的に参加、貢献するところを育てる。